平和都市宣言

われわれは、
日本国憲法を貫く平和精神に基いて、
核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、
全世界の人々と相協力してその実現を期する。
多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、
ここに永久に平和都市であることを宣言する。

昭和33年8月10日

鎌倉市

鎌倉市民憲章

制定　昭和48年11月3日

前　文

鎌倉は、海と山の美しい自然環境とゆたかな歴史的遺産をもつ古都であり、わたくしたち市民のふるさとです。すでに平和都市であることを宣言したわたくしたちは、平和を信条とし、世界の国々との友好に努めるとともに、わたくしたちの鎌倉がその風格を保ち、さらに高度の文化都市として発展することを願い、ここに市民憲章を定めます。

本　文

1　わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
1　わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
1　わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
1　わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。
1　わたくしたちは、鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。

編集・発行/鎌倉市 共創計画部 企画計画課

〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
Tel：0467-23-3000
http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C005531
Printed with UV ink VOC Free

第3次鎌倉市総合計画
第4期基本計画　概要版

古都としての風格を保ちながら、
生きる喜びと新しい魅力を創造するまちへ

令和2年（2020年）4月

鎌倉市

鎌倉市がどんな未来を目指しているのか、
そのために何を大切にして、
どんなことに取り組んでいくのか、
その考え方を紹介します。

鎌倉は、貴重な歴史的・文化的遺産と、海や緑などの自然環境に恵まれたまちです。
わたしたちは、先人が築いてきたかけがえのない資産を守り育て、後世に引き継ぎ、鎌倉に住むことに喜びと誇りを感じるだけでなく、訪れる人も、来てよかった、住んでみたいと思えるまちをつくります。

＼ 鎌倉の将来都市像は ／

**古都としての
風格を保ちながら、
生きる喜びと新しい魅力を
創造するまち**です。

鎌倉の『いま』と『これから』

人口

鎌倉市の人口は、今後、減少傾向が強まり、特に子どもや若い世代の減少と高齢者割合の増加により、更に少子高齢化が進行することが見込まれます。
このため、次の世代を支える若い世代や、子育て世代を増やす取り組みを進め、年齢構成バランスを維持し、人口減少を緩やかにとどめていくことが必要です。

環境

日本初のナショナル・トラスト運動※、全国に先駆けた「鎌倉市緑の基本計画」策定など、市民とともに緑の環境づくりを進めてきました。生活環境の面では、さまざまな分別収集・資源化に取り組み、積極的に資源の再利用を進めてきました。廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用を進め、循環型社会の形成が必要です。

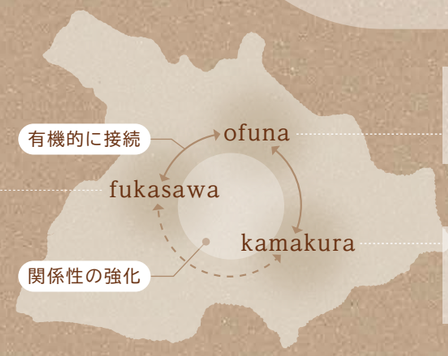
地球規模での環境問題への取り組みが、近年、ますます重要視されています。地球温暖化対策に向けた温室効果ガスの削減は、わたしたち一人一人が国際社会に責任を負っています。「SDGs未来都市」として、日本の都市の模範となるよう、市民・NPO・企業などが協力して身近な環境問題に積極的、継続的に取り組んでいくことが必要です。

※14ページ古都保存法（御谷騒動）参照

土地利用

古都保存法や首都圏近郊緑地保全法などに基づく指定を受けた緑地が市域の3分の1を占め、良好な環境づくりに寄与しています。
一方、市街地では空き家の増加や工場の市外移転などにより、活力低下などの課題が生じています。

このため、歴史的・文化的遺産や自然との調和に配慮しつつ、鎌倉・大船・深沢の3つの拠点がそれぞれの特性を生かし、互いに影響し合うことで市域全体の魅力を高めていくことが必要です。また、近年多発するさまざまな災害などへの対応強化も重要です。



深沢拠点
健康な暮らし、スポーツ、イノベーション、産業振興、新しいまちづくりなど

大船拠点
鎌倉の玄関口
交通結節点、商業活力など

鎌倉拠点
歴史、文化、自然、観光・交流、環境共生など

第4期基本計画は、SDGs・共創・共生の視点を盛り込んでいます。

SDGs

2015年に国連サミットで採択された**持続可能な開発目標**（Sustainable Development Goals）のことで、2030年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の17の開発目標とそれを実現するための具体的な169のターゲットのことです。
「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組みます。
平成30年（2018年）6月15日には、本市が提案した『**持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造**』が「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。

共 創

これまで、どこの国も経験したことのないスピードで進む人口減少・少子高齢化により生じる社会課題は、行政のノウハウや力だけで解決することは困難です。それには、企業・市民・NPO・大学をはじめ、多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を「共」に「創」り、粘り強く課題解決に取り組んでいくことが必要です。
本市では、多様な立場の人たちとの**共創関係**を築き、適切な市民サービスの提供や、個性豊かで活力のある持続可能な都市経営を進めています。

共 生

市民一人一人が、お互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認め、自らが望む形で社会とのかかわりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできる『**共生社会**』の実現を目指しています。平成31年（2019年）4月「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」の制定や、福祉総合相談窓口の開設、パートナシップ宣誓制度の創設、障害者二千人雇用などの取り組みを進めています。

多くの人にとっての「ふつう」や「当たり前」を前提とした社会に、生きにくさや居心地の悪さを感じる人がいます。「ふつう」や「当たり前」の意味は人によって違うからです。目に見えない、言葉にできない生きにくさに気づくことが共生社会への一歩となります。

ありたい未来を実現するために

市民が主役

私たちにとって身近なことはできる限り地域で解決する仕組みをつくります。そして、すべての人が自らの望む形で参加できる社会をつくります。

子どもからお年寄りまで、多世代がふれ合えて、誰もが活動に参加しやすい環境をつくります。

「支え手」「受け手」を固定せず、誰もが役割と生きがいを持てる社会へ

まちにかかわるすべての人たちとの対話を重ね、新しい価値を築きます。

さまざまな方法を活用し、本市の情報を積極的に発信します。また、幅広い世代の意見をきめ細かく聴き取り、意見の一致を図り、計画づくりの過程を可視化します。

市民対話

2030年の鎌倉を「**ともに考え、ともに創る**」をテーマに市民対話を行いました。
参加者それぞれが自分にできることを持ち寄り、まちに新たな価値を築くことを目的に、4回開催しました。
幅広い年代の方が参加し、市民対話終了後も、共創関係の構築・充実に向け、対話を重ねています。

鎌倉リビングラボ

「鎌倉リビングラボ」は、住民が「主役」となり、**地域の課題を発掘し、地域課題を解決する**取り組みです。
住民、企業、大学、行政などが連携・共創し、暮らしを豊かにするモノやサービス、まちの仕組みを生み出すことで社会全体や地域の課題を解決します。
現在「鎌倉リビングラボ」は今泉台を中心に活動をしていますが、今後は全市に広げていき、住民が主役の産官学民が共に活動するこの取り組みを通して、地域の課題解決とともに、まちに新しい価値を築いていきます。

Fab City宣言

本市は、「ファブラボ鎌倉」と連携し、平成30年（2018年）7月に日本初となる「Fab City宣言」を行い、「Fab Lab(※)」の世界的ネットワークに参加しました。
今後は、**共創の仕組みづくりを官民連携で積極的に推進**し、さまざまな分野でテクノロジー等を活用して、「世界に誇れる持続可能なまち」を目指していきます。

※「Fab Lab」（ファブラボ）とは、3Dプリンター、3Dスキャナー、レーザーカッターなどのデジタル機器の工作ツールを備えた、市民のための地域工房の名称です。
「ファブラボ鎌倉」（所在地：扇ガ谷）は、つくば市とともに平成23年（2011年）に日本初のFab Labとして誕生したという歴史があります。

持続可能な都市経営

市民・NPO・企業・大学など、多様な担い手との共創関係を築いて複雑・高度化する課題解決に取り組みます。

老朽化が進む公共施設や社会インフラの計画的な維持管理等（マネジメント）を着実に推進します。

テクノロジーの導入による業務の効率化、統計やデータなどに基づく事業の選択と集中など、徹底した行財政改革に取組むとともに、次世代に鎌倉のまちを引き継ぐために必要な投資を行います。

スマートシティ

気候変動や超少子高齢化が更に進むこれからの時代、これまでの社会の仕組みを変革し、より豊かで暮らしやすい地域を創造していくことが求められています。
たとえば、歳を重ねるなかで、これまではあきらめていたことがテクノロジーの導入で可能になったり、これまで地域活動に参加できなかった若い世代など、

さまざまな立場の人がテクノロジーの活用によって一緒に活動できるようになるかもしれません。
鎌倉市では、人の暮らしに寄り添うテクノロジーを活用し、日々の困りごとを解決するだけでなく、暮らしを豊かにしていく「スマートシティ」の実現に向けて、いち早く取り組みます。

将来目標 1

人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち

すべての市民が、平和を大切にするとともに、
一人一人の個性と人権をお互いに尊重する社会を目指します。
また、国籍や文化の違いを理解し、
支え合う共生社会を目指します。

- 平和
- 人権
- 多文化共生社会

P.9

将来目標 4

健やかで心豊かに暮らせるまち

鎌倉の次世代を担う子どもたちが健やかに育ち、
生きる力を育み、自立できる環境づくりを進めます。
また、多様性を認め、だれもが生涯にわたって元気で自分らしく、
安心して住み続けられる地域を目指します。

- 健康福祉
- 青少年育成
- 子育て
- 生涯学習
- 学校教育
- スポーツ・レクリエーション

P.17

鎌倉の将来都市像

古都としての風格を保ちながら生きる

将来目標 2

歴史を継承し、文化を創造するまち

鎌倉が世界に誇る歴史的・文化的な資産を守り、
未来に引き継ぐとともに、これを生かしながら、
新しい文化を創造し、
全国や世界に発信するまちを目指します。

- 歴史環境
- 文化

P.11

将来目標 3

都市環境を保全・創造するまち

鎌倉で暮らし、活動するすべての人々の協力のもと、
豊かな自然や美しいまち並みなどの都市環境を守り、
つくり、育て、地球環境に負荷をかけない、
持続可能なまちを目指します。

- みどり
- 都市景観
- 生活環境

P.13

喜びと新しい魅力を創造するまち

将来目標 5

安全で快適な生活が送れるまち

防災や防犯、交通安全とともに、
道路、下水など都市インフラの整備と
適切な維持管理により、
市民が安全で安心に生活できる環境をつくります。
また、快適で活力のある都市空間の創造を目指します。

- 防災・安全
- 道路整備
- 市街地整備
- 住宅・住環境
- 総合交通
- 下水道・河川

P.21

将来目標 6

活力ある暮らしやすいまち

農業や漁業などの保護・育成とともに
観光振興による地域活性化など、
環境と調和した産業の活性化を目指します。
また、市民の多様な働き方の支援、
技能の奨励・継承とともに、
消費者教育の推進により、
活力ある暮らしやすいまちを目指します。

- 産業振興
- 観光
- 勤労者福祉
- 消費者対策

P.25

人権を尊重し、人との出会いを大切にするまちへ

すべての市民が、平和を大切にするとともに、
一人一人の個性と人権をお互いに尊重する社会を目指します。
また、国籍や文化の違いを理解し、支え合う共生社会を目指します。

平和

2025年の鎌倉は

すべての市民が、「平和都市宣言」、「鎌倉市民憲章」の精神を持ち、鎌倉から世界へ平和の大切さを広く発信しています。

そのために…

- 市民に身近な場で**平和**について考える機会を提供します。

平和都市宣言・鎌倉市民憲章について

平和都市宣言

われわれは、日本国憲法を貫く平和精神に基いて、核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、全世界の人々と相協力してその実現を期する。
多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、ここに永久に平和都市であることを宣言する。

鎌倉市民憲章　本文

1 わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
1 わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
1 わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
1 わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。
1 わたくしたちは、鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。

人権

2025年の鎌倉は

市民一人一人が社会とのかかわりを持ち、お互いを尊重し合い、支え合い、個性を認め、いつまでも安心して自分らしく暮らすことのできるまちになっています。

そのために…

- 他者を思いやり、行動できるよう、市民の**人権**に関する理解を深めるとともに、人権に関する相談体制を充実します。
- あらゆる分野における活動に誰もが参画できる社会を目指し、特に、政策や方針などの意思決定の場に**女性が参画**し、意見が反映される社会をつくります。

多文化共生社会

2025年の鎌倉は

国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、ふれ合い、支え合う社会への取り組みが進んでいます。また、さまざまな国籍・文化の人々が安心して快適に生活できるまちになっています。

そのために…

- 講座・イベントの開催とともに、国際理解教育などを通じて、国籍や文化が異なる人たちとともに生きることの大切さへの理解を深めます。
- 外国籍市民への行政情報の提供や、学校教育の場での対応を充実します。

市民対話参加者から

鎌倉市にこうなってほしい！

- お互いを認め合いそれぞれの居場所・働く場所があるまち
- 障害等の有無に関係なく遊べる自然環境がある
- 鎌倉にかかわる人すべてが共生し、生き生きと元気に過ごせる
- 人種などの差別がなく住民として受け入れられる

市民対話参加者から

鎌倉市のここが魅力！

- 日本で一番最初に平和宣言
- 外国人が一住民として地元で活躍できる
- 多様性・ありのままでいられるところ

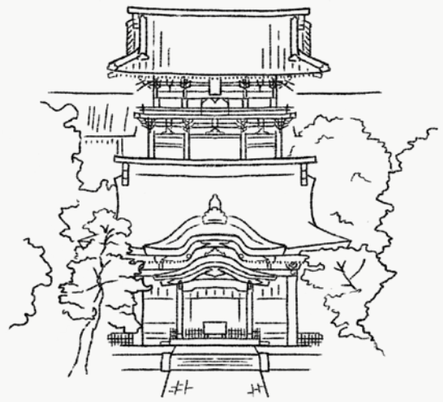
歴史を継承し、文化を創造するまちへ

鎌倉が世界に誇る歴史的・文化的な資産を守り、
未来に引き継ぐとともに、これを生かしながら、
新しい文化を創造し、全国や世界に発信するまちを目指します。

歴史環境

2025年の鎌倉は

**史跡などの文化財の保存が図られ、
市民や市を訪れた人たちがふれることのできる形で
活用されています。**



そのために…

- 貴重な文化財を未来に引き継ぐために、**文化財指定**や登録を進めるとともに、保管場所や**専門的人材の確保**に努めます。
- 豊富な文化財や歴史的遺産をつなぎ、鎌倉のまち全体を**博物館（エコミュージアム）**とすることを目指します。

エコミュージアム

市内に点在する豊富な歴史的遺産や自然、文化的資源などをつなぎ（ネットワーク化）、鎌倉のまち全体を博物館として、市民や来訪者が価値観を共有し、これらを大切に守り、後世に伝えていくことを目指します。「博物館」という建物をつくるのではなく、まち全体を「博物館」とします。

文化

2025年の鎌倉は

**鎌倉がこれまで歩んできたそれぞれの時代の文化を学び、
親しむことができるまちになっています。
市民が質の高い文化にふれることで、市民等の文化芸術活動が活発に行われ、
新たな文化の創造・発信が行われています。**

そのために…

- 市民が質の高い芸術にふれることができるよう、鎌倉の文化の研究と文化事業の充実を進めます。
- 鎌倉ゆかりの**文化芸術**を広く市民や訪問者へ知らせるとともに、後世に伝えます。

市民対話参加者から

鎌倉市にこうなってほしい！

- 古いものを大切にする心が育っている
- 多様な文化に一堂にふれられる場所
- 鎌倉市内にある人材や物資や自然などの資源に気づき、活用し合えている

市民対話参加者から

鎌倉市のここが魅力！

- まち並みそのものが魅力
- 武家文化の伝承を担う人々
- 流鏑馬などの伝統行事がある
- 地形そのものが歴史

鎌倉ミライ新聞〈市民対話から〉

市民対話では、参加者の方から本市の魅力をたくさん出していただき、その魅力を起点に**「2030年の鎌倉」**が取り上げられた新聞の一面を描いていただきました。

観光地として1000年続いてきた鎌倉に、
第二次鎌倉幕府が成立し、
今後1000年、続くことが決定します。

2000年持続することにより
都市鎌倉のさらなる発展を
期待されています。
歴史的な旧鎌倉、新鎌倉が連携することで、
さらに暮らしやすくなります。
これまでの歴史と、
新しい文化が交わっていくのです。

市民対話では他にもたくさんのアイデアが出されました！

その他のアイデアはこちら➡

鎌倉市HP

都市環境を保全・創造するまちへ

鎌倉で暮らし、活動するすべての人々の協力のもと、
豊かな自然や美しいまち並みなどの都市環境を守り、つくり、育て、
地球環境に負荷をかけない、持続可能なまちを目指します。

みどり

2025年の鎌倉は

**緑や公園などが適切に維持・管理され、
その機能が十分に発揮されています。
また、緑を維持管理する担い手の育成が行われ、
市民の自発的な活動が活発に行われています。**

そのために…

- 鎌倉市が所有する緑の効果的な活用とともに、民間が所有する緑の維持管理や市民の**緑化推進活動**の支援などにより、緑の質の充実を図ります。
- 老朽化した公園施設の計画的な修繕や更新により、ライフサイクルコストの軽減を図るとともに、利用者の多様なニーズや地域特性への対応に努めます。

みどりのボランティア（鎌倉風致保存会）

鎌倉の美しい景観を守るため、緑の手入れを行う「みどりのボランティア」の活動を行っています。風致保存会が所有している御谷山林や十二所果樹園をはじめ、史跡の東勝寺跡や朝夷奈切通、また史跡を含む寺院後背の緑地などで、下草刈り、枝払い、倒木の処理など、年間を通して行っています。この活動に参加されるボランティアを募集しています。

●問合せ
〈公益財団法人鎌倉風致保存会〉 電話：0467-23-6621

緑のレンジャー

本市では、緑に親しみ、守るための知識や技術を学ぶ講座を開いています。
小学校4・5年生向けの「ジュニアレンジャー」では、豊かな緑をフィールドにした自然観察を通じて、緑の大切さを学ぶことができます。大人向けの「シニアレンジャー」では、道具の使い方から樹林地内での作業まで、ステップアップして学ぶことができます。どちらも毎年2月から3月にかけて受講生を募集しています。

まち並みの緑の奨励事業

緑豊かで安全なまち並みを創造するため、敷地の道路側への緑化にかかる費用の一部を補助しています。

都市景観

2025年の鎌倉は

**さまざまな人々が景観を生かしたまちづくりに取り組み、
歴史と自然の豊かさがまち並みと調和した魅力的なまちになっています。**

そのために…

- 歴史的な建物やまち並みなど地域の個性を生かした**魅力的な景観づくり**に取り組みます。
- 「歴史的風土保存計画」と「鎌倉市風致保全方針」に沿って、都市における良好な自然環境と**歴史的風土**の保存を図ります。

景観整備機構について

民間団体や市民による自発的な景観づくりの推進を図るため、景観法に基づき、良好な景観形成を担う団体を景観整備機構に指定することができます。本市は、平成23年（2011年）4月に、一般社団法人ひと・まち・鎌倉ネットワークを景観整備機構に指定しました。ひと・まち・鎌倉ネットワークは、景観に関する住民の取り組みの支援や、良好な景観形成に関する調査・研究を行っています。

古都保存法（御谷騒動）

高度経済成長期に「昭和の鎌倉攻め」といわれる宅地造成の波が鎌倉にも押し寄せました。この波は、貴重な旧跡にも及ぶようになり、鶴岡八幡宮の裏山、かつて八幡宮寺の子院があった御谷を宅地開発する計画が持ち上がりました。それに対し作家大佛次郎ら文化人も加わった市民による反対運動が起こり、日本初のナショナル・トラスト団体として鎌倉風致保存会が誕生し、土地を買収して緑を守りました。この運動をきっかけに、昭和41年（1966年）議員立法により「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」（古都保存法）が成立し、京都・奈良・鎌倉の歴史的風土が保存されることになりました。

市民対話参加者から

鎌倉市にこうなってほしい！

- 自然を守って次世代につなげる
- 100年後も住みたいまちづくり
- ゴミの分別がきれいな地球をつくる

市民対話参加者から

鎌倉市のここが魅力！

- ホタルのいる水・川
- 素晴らしい海岸の景観
- ハイキングコースが沢山あり空気がきれい
- 鎌倉アルプスでハイキング・トレラン・登山
- 丘陵に広がる緑豊かな住宅街
- 緑が多い

都市環境を保全・創造するまちへ

生活環境

2025年の鎌倉は

市民、事業者、行政が連携・協働して、
ごみの焼却量や埋め立てによる
最終処分量を限りなくゼロに近づける
「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、
発生抑制を最優先した3Rの取り組みが実施されたことにより、
循環型社会が形成されています。
また、エネルギーの効率的な利用や、再生可能エネルギー等の導入などにより
低炭素型の社会への移行が進んでいます。
大気汚染、水質汚濁などの抑制、まちの美化活動などにより、
生活に身近な環境も守られています。

そのために…

- ライフスタイルの見直しや生産販売事業者への啓発を図り、3Rの取り組みを継続・強化します。
  特に「かまくらプラごみゼロ宣言」に基づき、
  使い捨てプラスチック製品を利用しないように働きかけていきます。
- 多様な市民生活に対応した効率的・効果的な分別・収集体制の構築とともに
  最新技術の活用などにより、
  環境に配慮した安定的で効率的なごみ処理体制を構築します。
- 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減のため、低炭素社会の構築に向け、
  効率的なエネルギー利用の促進、再生可能エネルギーの地産地消の導入による
  循環型社会の構築、環境教育の充実・環境保全活動の実践に取り組みます。

かまくらプラごみゼロ宣言について

平成30年(2018年)10月、市は「かまくらプラごみゼロ宣言」を行いました。同様にプラごみゼロ宣言をしている県と連携しながら、レジ袋の利用廃止などこれまでの取り組みを強化するとともに、市役所内でも、職員のマイバック、マイボトルの使用の徹底、自販機でのペットボトル飲料の販売を廃止し、ゼロ・ウェイストの実現、更にはSDGsの目標の達成を目指します。

プラごみ削減・マイボトルで冷たいおいしい水を汲める給水スポット

本市では、ペットボトル飲料の代替として、マイボトルの利用促進を市民の皆さんに呼びかけてきましたが、かまくらプラごみゼロ宣言以降の取り組みを強化するため、ウォーターステーション(水道直結式ウォーターサーバーの給水スポット)を、鎌倉駅西口駅前広場に設置します。
今後、市内の公共施設にマイボトル専用のウォーターステーションを給水スポットとして設置し、市民や観光客に利用を呼び掛けるとともに、マイボトルの普及啓発を図ります。

令和2年(2020年)2月　「気候非常事態宣言」を表明しました

本市は、SDGs未来都市として、地球温暖化による気候変動の対策に注力して持続可能な社会を実現するため、気候非常事態であることを宣言しました。

1　気候危機の現状について市民や事業者と情報を共有し、協働して全力で気候変動対策に取り組みます。
2　2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにすることを目指します。
3　市民の命を守るため、気候変動の適応策として風水害対策等を強化します。
　みらいの地球のために脱炭素を目指す「緩和策」と今ある危機に対応する「適応策」を進めます。

2030年、自然と文化にふれ続けられるまちとは？

市民対話から出た意見

- ゴミを捨てない出さない街
- 会社も地域に入ってゴミ拾い
- 小さい時から自然にふれる
- 自治会で清掃活動空気を作る
- 里山保全を学校教育のプログラムに
- 市民が楽しく公園を守る、大切にするしくみ
- 歴史文化を守るネットワークのしくみづくり
- プラゴミゼロになるといい
- 自然活用したビジネスの育成
- 鎌倉野菜を残す学校の取り組み
- 近所同士で自然観察・おまつりをして自然と文化にふれる
- 各地域で歴史と文化を調べ発信する活動をする

将来目標 4

健やかで心豊かに暮らせるまちへ

鎌倉の次世代を担う子どもたちが健やかに育ち、
生きる力を育み、自立できる環境づくりを進めます。
また、多様性を認め、誰もが生涯にわたって元気で自分らしく、
安心して住み続けられる地域を目指します。

健康福祉

2025年の鎌倉は

市民一人一人が、
お互いを尊重し合い、支え合い、自らが望む形で社会とのかかわりを持ち、
いつまでも安心して自分らしく暮らせるまちとなっています。
また、保健・医療・福祉サービスの充実と市民の主体的な健康づくりにより、
誰もが生涯にわたって健康を維持しています。

そのために…

- 市民が世代や背景を超えて地域でつながり、互いに「**支え**」、「**支えられ**」、誰もが役割と生きがいを持てる仕組みをつくります。
- 市と地域包括支援センターなどの関係機関が互いに連携し、市民の抱える**課題やニーズを相談・解決**できる場と、**総合的に相談・支援**を行う仕組みづくりを進めます。
- 高齢者や障害者等の就労支援、経済的に生活に困っている方への支援の充実、**医療・セーフティネット**の確保等により、すべての市民が**健康**で**安心**して暮らせる環境づくりに取り組みます。
- **人生100年**の長寿社会に対応し、生涯を通じた市民の**健康づくり**の支援とともに、いつまでも自分らしく生活することができる環境づくりを進めます（健診・医療・介護に関するさまざまなデータを活用することで、安全で安心な暮らしをまもります）。

ライフステージに応じた福祉サービス

住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるよう、住民同士が支え合える仕組みづくりや、医療職、福祉職などの多職種が連携し、それぞれの専門性を発揮した多様な福祉サービスの提供と市民自らが必要とする福祉サービスを選択できる地域づくりを通じて、包括的な支援体制を構築します。そして更に、防災、防犯、交通・移動などを含む、まちづくりとしての鎌倉版地域包括ケアシステムへと拡げていきます。

障害者二千人雇用に向けた取り組み

障害のある方の社会参加、自立に向け、障害者雇用を促進することを目的とした「鎌倉市障害者二千人雇用センター」を開設しました。ここでは、障害のある方の「働きたい」「働き続けたい」、企業の「雇用したい」「雇用し続けたい」をサポートしています。
〈鎌倉市福祉センター1階〉 電話：0467-53-9203

子育て

2025年の鎌倉は

妊娠期から子育て期までの
切れ目のない支援の充実とともに、
地域全体で子育て家庭への支援が行われ、
子育ての不安や悩みを解消し、安心して子育てできる環境が整っています。
また、子育て環境の充実や地域とのつながりにより、
子どもたちが鎌倉ならではの体験や活動ができる環境が整っています。

そのために…

- すべての子どもが**健やかに成長**できるように、子どもによって異なる課題に対応した支援を行います。
- 子どもへの**虐待の防止**や経済的に困っている家庭の子どもなど、困難を抱える子どもへの支援を充実します。
- 妊娠期から子育て期までの**切れ目ない支援**を行います。
- 保育環境や放課後環境の充実を図るとともに、親子で気軽に集い、**子育ての悩み相談**もできる環境づくりに取り組みます。

かまくらっ子発達支援サポートシステム

発達に課題のある子どもたちの成長を地域で支援するための「かまくらっ子発達支援サポートシステム」を実施しています。本市が開催するサポーター養成講座を受講した講座修了者が地域の身近な支援者として、市立小・中学校や幼稚園・保育園などで、児童・生徒に生活面や安全面などの支援を行うという制度です。

市民対話参加者から

鎌倉市にこうなってほしい！

- 高齢者も生き生きと活躍できる
- 人を育てる、ミライにつながる
- 助け合える社会
- 子育て支援活動が活発になる
- 子どもが「鎌倉市」を自分の頭で考えられるようになる
- 地域参画型の学校教育が実現できている

市民対話参加者から

鎌倉市のここが魅力！

- 子どもから高齢者まで色々な多世代の人がバランス良く暮らしている
- 子育て世代・若い移住者が都内から増えている
- 経験とスキル豊かなシニア
- 高齢者が楽しそうでおしゃれ

健やかで心豊かに暮らせるまちへ

学校教育

2025年の鎌倉は

学校・家庭・地域などとの連携により、
安全で安心な学校づくりが進められています。
学校では、子どもたちの学ぶ意欲を高めながら、
きめ細かい指導により、生きる力を育んでいます。
また、学校規模の適正化とともに、
施設の再編などにより教育環境が良好に整備されています。

そのために…

- 学校・教育委員会・家庭・地域・市のきめ細かな連携により、**安全・安心な教育環境**をつくります。
- ICT教育、郷土学習、国際理解教育や創造的思考力の育成を積極的に進めます。
- 児童生徒一人一人のニーズや個性に応じた教育を進め、また、すべての子どもたちが多様性を認め合い、地域で共に学べる環境をつくります。
- 学校規模の適正化や再編、施設の老朽化対策など、学校施設の計画的な整備を進めます。

公共施設再編について

本市では、昭和30年代から40年代にかけての大規模な宅地造成による集中的な人口増加に合わせ公共施設の整備が行われてきました。全国的にみて、他の自治体と比較しても本市の公共施設の老朽化は進行しており、今後、これらの維持管理・建替え費用の増大が見込まれています。そのため、平成27年（2015年）3月に「鎌倉市公共施設再編計画」を策定し、維持コストを半分に圧縮するため、施設の複合化・集約化、適切な配置、運営の効率化や財源確保に取り組んでいます。
本市の公共施設の総面積の約40％を占める学校の再整備は、公共施設の再編を進めるうえで非常に重要となります。このため、再編計画では、学校施設を拠点として、学校機能を損なわないための工夫や配慮を行いながら、学校を中心とした再編、複合化に取組むこととしています。

青少年育成

2025年の鎌倉は

青少年が集うことができる居場所や
社会参加の機会・仕組みなど、青少年一人一人が多様な体験や活動を通じて、
心身ともに健やかに成長できる環境が整っています。

そのために…

- 青少年が多様な体験・活動や人々とのかかわりを通じて、自立・参画・共生していく基礎を育む居場所づくりを支援します。
- 地域で青少年を育てる風土をつくり、成長の段階にあわせた**社会参画**の機会をつくります。

生涯学習

2025年の鎌倉は

誰もが手軽に地域の学習資料を活用できる環境が整い、
教育機関・企業などとの連携により、多様なプログラムが提供され、
いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、
世代を超えて市民同士がふれ合うことができる生涯学習が推進されています。

そのために…

- 教育機関・企業などとの連携による資料の収集・保存の充実、学習講座・イベント等の開催、幅広い情報発信により、多世代の多様な**生涯学習ニーズ**に対応します。
- 世代を超えて市民同士がふれあい、交流できる学習の機会を提供します。

スポーツ・レクリエーション

2025年の鎌倉は

スポーツ施設の整備が進み、
競技スポーツが活性化し、市民のスポーツへの関心が高まっています。
また、身近な場所で気軽にスポーツ・レクリエーションに取り組める場が整備され、
市民の運動習慣が向上し、健康寿命が高まっています。

そのために…

- **市民スポーツ・レクリエーション**の推進により、市民がスポーツを習慣化するきっかけづくりに取り組みます。
- アマチュアスポーツ・生涯スポーツを支える団体の支援・育成とともに、スポーツ活動を支援・指導する担い手を育成します。
- 市民大会等の開催やトップアスリートなどから指導を受ける機会を提供します。

将来目標 5

安全で快適な生活が送れるまちへ

防災や防犯、交通安全とともに、道路、下水、河川、住宅など
都市インフラの整備と適切な維持管理により、
市民が安全で安心に生活できる環境をつくります。
また、快適で活力のある市街地整備、都市空間の創造を目指します。

防災・安全

2025年の鎌倉は

自分で守る（自助）・周囲の人と助け合う（共助）・
公的な支援（公助）の視点で、総合的な自然災害対策が
行われるとともに、市民の防災・防犯意識と地域の防災・
防犯力の向上により、安全で安心して暮らすことができるまちとなっています。
また、あらゆる緊急事態を想定した体制などが整備され、
市民の生命・財産が守られています。

そのために…

- 自助・共助・公助の役割分担と連携により、総合的な**災害対策**に取り組みます。
- 建物の耐震化、道路に面する危険なブロック塀の除却支援とともに、
  防災知識の普及や自主防災組織の育成強化などにより、
  災害に強い地域の体制を整えます。
- 避難路の整備、避難経路・方法の周知を進めるとともに、
  多様なニーズに配慮した避難所の体制整備、
  ICTなど新たなテクノロジーを活用した情報収集・発信ができる環境を整えます。
- 国、県、その他関係機関などとの連携により、危機に備えた対策、体制整備を行います。
- 地元企業、消防団、自主防災組織等との連携により、
  災害に強いまちづくりを進めます。
- 市民の防犯意識の向上のための啓発や、地域全体で子どもの安全を見守る活動の推進、
  SNS等を活用した防犯情報の提供など、犯罪に強い地域をつくります。
- 市民、市、警察の連携による地域防犯力の強化とともに、防犯の観点から、
  公共施設の管理や住環境づくりに努めます。

どうすれば、鎌倉市民全員が 防災訓練 に参加するようになるだろうか？

市民対話から出たプロジェクトアイデア

宿泊型の防災訓練 STAY & SAFE
町内会防災部が
協力して宿泊型の
避難訓練を行う

My避難所
自宅を出発して
1人で避難所まで
行けるように
防災意識を高める

市民対話では他にもたくさんの
アイデアが出されました！
その他のアイデアはこちら⬇
鎌倉市HP

市街地整備

2025年の鎌倉は

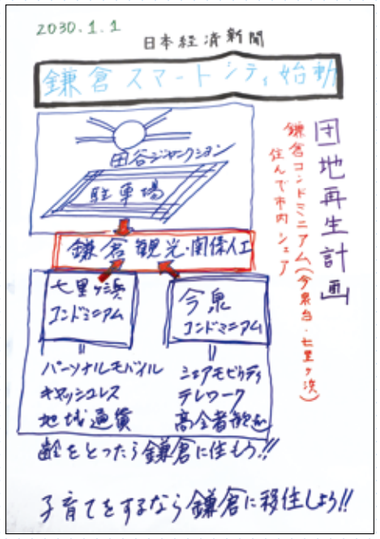
社会環境の変化や地域ニーズに対応した、
災害に強い安全・安心なまちとなっています。
また、深沢地域のまちづくりを中心に未来志向の
まちづくりが進み、市域全体の魅力が高まっています。

そのために…

- 市民等との協働による地域の個性や特色を生かした、
  市民が主役のまちづくりを進めます。
- 自然災害への備えを強化するとともに、
  災害発生後の復旧・復興力を備えたまちづくりを進めます。
- 鎌倉のまち並みや歴史、文化との調和に配慮しながら、
  深沢地域を戦略フィールドとし、AIやIoTなど、日常生活に寄り添う
  テクノロジーの活用による**未来志向のまちづくり**を進めます。

鎌倉ミライ新聞〈市民対話から〉

市民対話では、参加者の方から本市の魅力をたくさん出していただき、
その魅力を起点に**「2030年の鎌倉」**が取り上げられた
新聞の一面を描いていただきました。



2030年1月1日の新聞一面は
「鎌倉スマートシティ始動」です！

団地再生計画により鎌倉コンドミニアム、
七里ヶ浜と今泉台にコンドミニアムが誕生しました。
コンドミニアムでは、パーソナルモビリティが利用されており、
高齢者の施設のほか、シェアモビリティ、テレワーク、
地域内キャッシュレスなどが促進されています。

高齢者がますます
住みやすく、
子育てもしやすいまちで、
世代間交流もさかん。
心が通うスマートシティを
実現します。

市民対話では他にもたくさんの
アイデアが出されました！
その他のアイデアはこちら⬇
鎌倉市HP

安全で快適な生活が送れるまちへ

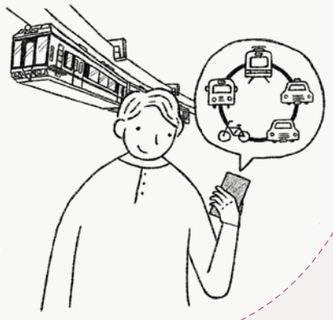
総合交通

2025年の鎌倉は

公共交通の利用促進、
道路や駐車場などの交通施設の有効活用、
MaaS（ICTを活用して交通をクラウド化し、マイカー以外のすべての交通手段をつなぐシームレスな移動サービス）などの新たな移動システムにより、
鎌倉らしい交通環境が整っています。

そのために…

- （仮称）**鎌倉ロードプライシング**や新たな交通移動システムを導入し、交通環境の改善に努め、すべての人が快適に移動できる環境を整備します。
- 生活道路を通過する車両の進入を抑え、歩行者優先の交通環境をつくります。



道路整備

2025年の鎌倉は

計画的に整備・修繕を進め、
道路・橋などの安全性と快適性が確保されています。

そのために…

- 歩行空間の確保、**バリアフリー化**、無電柱化の実施に向けた検討を進めます。
- 道路・橋・トンネルの計画的な維持修繕を行います。

社会基盤施設マネジメント計画

市民生活を支える道路・下水・河川などのインフラの多くは、大規模な宅地開発などによる人口増加に合わせて集中的に整備されたもので、公共施設同様に老朽化が進んでいます。公共施設と異なり集約、統廃合できないインフラの維持管理経費の増加は、自治体にとってより深刻な課題です。
このため、インフラ管理のあり方を基本から見直し、適切かつ持続的に管理するための方針として「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」を平成28年（2016年）3月に策定しました。
本市では、この計画に基づき、インフラに求められる機能や役割を果たすため適切な維持管理を進め、市民が安全で安心に生活を続けられるよう取り組んでいます。

住宅・住環境

2025年の鎌倉は

高齢者や障害者世帯など、
誰もが平等に生活できる住環境が整っています。

そのために…

- 高齢者や障害者も住みやすい市営住宅の供給や民間賃貸住宅への入居が困難な人をサポートする**居住支援**体制の構築を行います。
- 関係団体と連携して、空き家に関する相談体制を構築するとともに、良質な**空き家の有効活用**を支援します。

下水道・河川

2025年の鎌倉は

下水道施設の計画的な改築・更新を進め、
災害時にも処理を継続できる体制が整っています。
また、河川・水路の整備も進み、
局地的な集中豪雨や津波の遡上などが生じても、浸水被害の軽減が図られています。

そのために…

- 下水道施設全体の点検・調査等を行うことによって、施設の状況をつかみ、評価を行い、長期的な施設の状態を予測しながら、修繕・改築を実施します。
- 浸水対策として**雨水貯留施設**の設置を進めるとともに、下水道施設の耐震化、津波対策を進めます。
- 河川・水路の適切な維持管理と計画的な整備を進めます。

市民対話参加者から

鎌倉市にこうなってほしい！

- 職住近隣
- 宿泊施設が避難所として利用できる
- 交通問題の解消
- 避難所で安心して生活できる環境ができている

市民対話参加者から

鎌倉市のここが魅力！

- 治安がよく、いい人が多い
- 地域の人が優しい
- 眺めの良いモノレール
- 海と森に囲まれたまち
- 鎌倉時間がある
- 井戸・わき水
- 電車道がいい感じ

将来目標 6

活力ある暮らしやすいまちへ

農業や漁業などの保護・育成とともに観光振興による
地域活性化など、鎌倉ならではの環境と調和した産業の活性化を目指します。
また、市民の多様な働き方の支援、技能の奨励・継承とともに、
消費者教育の推進により、活力ある暮らしやすいまちを目指します。

産業振興

2025年の鎌倉は

農水産物が元々持っている価値を更に高め、
ブランド力を向上させることで、
鎌倉ブランドの農水産物が広く普及しています。
中小企業の経営基盤が強化され、市内企業の事業拡大や新たな産業の立地により、
産業が活性化し、市内で働く環境も整っています。

そのために…

- 農業や漁業が安定的に営まれ、
  新たな担い手や後継者の育成・確保につながる支援を行うとともに、
  農産物の**鎌倉ブランド**の認知度向上や水産物のブランド化に取り組みます。
- 経営相談や融資・補助制度の充実等により、
  中小企業の経営安定、革新、事業拡大を支援します。
- 深沢地域整備事業やまだ利用できていない公的な土地や建物を活用した
  企業誘致に取り組みます。
  また、企業誘致、**テレワーク環境の充実**により、
  市内の雇用を生み出します。
- 伝統的工芸品である**鎌倉彫**の保護・育成に取り組みます。

テレワークの推進について

一人一人の働く意欲に応え、活躍できる環境を実現するため、近年、テレワークの環境を整え、若年層の移住促進やサテライトオフィスの誘致などの取り組みを始める自治体が増えています。
本市でも、このような取り組みを積極的に推進するため、都内などへの通勤を減らし、本市内でテレワークを行うワークスタイルの普及、および市内企業に向けたテレワークの機運を高めています。

【テレワーク推進で目指すこと】
- 都内へ通勤というライフスタイルを転換し、鎌倉における新たなライフスタイルを創造します。
- 女性や高齢者等が社会参加しやすい環境を整えます。
- デジタル技術の発展やコワーキングスペースの整備により「働くまち」を創造します。
- 鎌倉市民のみならず、東京などからのクリエイティブな人材を誘致します。
- 東京一極集中から湘南・三浦半島地域に新たな圏域（生活・経済等）を形成します。

観光

2025年の鎌倉は

多様なプログラムと効果的な情報提供や
観光客と市民との交流など、地域全体で観光振興に取り組んでいます。
世界中から訪れる観光客、子どもから高齢者・障害者など、
すべての来訪者が安全・安心して過ごすことができる環境が整備されています。

そのために…

- 新たな**観光資源**を発掘し、
  その魅力を情報発信することで、
  観光客の長時間の滞在を促進し、
  観光消費の拡大を通じた地域の活性化に取り組みます。
- さまざまな国籍・文化を持った人たちや高齢者・障害者など、
  誰もが安全で快適に観光できるようおもてなしの視点を持って
  観光施設の整備を進めます。
- おもてなし精神の向上や**ボランティアガイド**の育成とともに、
  観光客のマナー向上に取り組みます。

市民対話参加者から

鎌倉市にこうなってほしい！

- 自給自足ができるまち
- インバウンドが増えている
- 多世代がイキイキと暮らす
- 市民活動が活発に
- 観光客にも、地域住民にも、やさしいまちに！
- 地産地消が環境保全につながっている

市民対話参加者から

鎌倉市のここが魅力！

- 港が近くて魚がおいしい
- 鎌倉彫
- 自由な働き方をしている人がいる
- 多くの神社仏閣
- 観光客でにぎわっている
- ベンチャー・フリーランス増加中
- 色あざやかな朝採れ野菜が手に入ること
- モーニングからディナーまでおいしいお店がたくさんある

活力ある暮らしやすいまちへ

勤労者福祉

2025年の鎌倉は

その人の年齢や生活環境、
希望に合った多様な働き方ができる環境が整っています。
また、専門的な技能を持った
技能者の育成・確保が進んでいます。

そのために…

- 多様な世代や背景、課題を持った方々など、就職を目指す市民のライフステージやニーズに合った**就労支援**を実施するとともに、雇用や労働環境の相談体制の充実を図ります。
- 技能者の育成や後継者の確保に向けた啓発活動などを進めます。

消費者対策

2025年の鎌倉は

市民一人一人が、
社会経済情勢や地球環境に配慮した消費行動を行い、
公正で持続可能な社会の形成に寄与しています。

そのために…

- 市民一人一人が消費者として、地球環境や社会について考え、行動するための情報提供と支援を行います。
- 消費者被害の未然防止、被害拡大防止に向け、啓発機会の充実や消費生活相談体制の充実に努めます。

社会経済情勢や地球環境に配慮した消費行動（エシカル消費）について

人や社会、環境に配慮したものやサービスを選んで消費することを「エシカル消費」といいます。商品を選択する際に、環境保全や資源保護などに配慮した商品や、適正な取引により生産された商品を選ぶなど、一人一人の小さな消費活動が社会を変える力となり、世界の問題解決につながります。本市では、持続可能な社会の実現に向け、市民の皆さまにエシカル消費の普及を進めていきます。

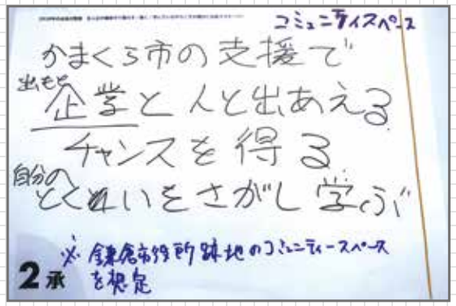
2030年、の鎌倉の 未来の物語

市民対話から出たアイデア

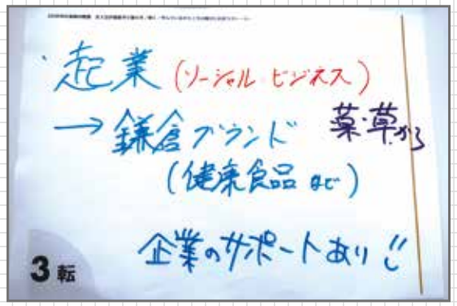
市民対話では、チームごとに「2030年の鎌倉市の物語」を作成していただきました。

テーマ モヤモヤしていた人が自分の得意を生かしてわくわく楽しく働けるまち

A子さんは2018年で28才です。子どもはいるけど、なにかモヤモヤを感じています。
家庭菜園の趣味もあるけれど、これから何をしよう……。



鎌倉市は空き地にコミュニティスペースを作り、企業と人が交流してチャンスを広げたり、自分の得意を探して学べたりするようになりました。



A子さんは、趣味を生かしてソーシャルビジネスで起業をしたいと思うようになりました。
鎌倉ブランドを生かし、薬草や健康食品を作ってはどうかと考えています。企業もサポートしてくれます。

市の援助などをもとに起業して、鎌倉ブランドの健康食品を作ることに成功した、A子さん。
金銭的にも成功しましたが、ときには地元で物々交換もしています。企業ともやりとりが増え、技術や基金の支援も受けられるようになりました。
地域での経済循環が生まれることを実感し、このモデルを世界にも展開させたいと野望が広がりました。
すべての人の得意を生かし、ビジネスに生かせる仕組みができるだけでなく、他の地域でもこのような循環を生み出す機会を作るまちになりました。

市民対話では他にもたくさんのアイデアが出されました！
その他のアイデアはこちら➡
鎌倉市HP

2030年の鎌倉を「ともに考え、ともに創る」

～第4期基本計画策定に向けた市民対話～

NEW TYPE KAMAKURA

平成30年度（2018年度）、”2030年の鎌倉を「ともに考え、ともに創る」”をテーマに、第4期基本計画の策定と並行して行った「市民対話」には、10代から80代までのさまざまな「まちにかかわる」人たちが集まりました。

市民の皆さんが、まちづくりをジブンゴトとして捉え、かかわることのできる環境づくりを進めることで、より魅力的で快適なまちをつくっていきたいと考えました。

市民と行政がありたい姿を共有し、そのために必要な活動を起こしていく。鎌倉の未来をつくる「共創関係」を築くことを目的に、市民対話を開催しました。

たくさんの世代の方に集まっていただきました！

第1回

「鎌倉市の将来像を描くための対話」

市民対話はこの様な流れで進めていきました！

地域の魅力を集める

鎌倉市の魅力を発掘・共有し、その魅力を起点に、2030年に本市が取り上げられた「未来の新聞」の一面を描いてみました。

モノ・コト・ヒト・トコロ・カコ・ミライ・ワザ・クウキ・シゴトの9つの観点から、魅力を集めました。

9つの観点から集めることで、普段は気づかないたくさんの魅力を発掘することができました！

第2回

鎌倉市のありたい姿を描く

持続可能なまちをつくるには、経済・社会・環境の1つも欠けることなく、互いに影響し合い、好循環が生まれることが重要です。

そのため、第2回では経済・社会・環境の3つの観点ごとに分かれてチームをつくり、それぞれの観点ごとに2030年の鎌倉市のありたい姿を考えました。

その後、ありたい姿を実現する「2030年の鎌倉市の未来の物語」を描きました。

「2030年の鎌倉市の未来の物語」には、鎌倉市のありたい姿に対する参加者の想いがたくさんつまっています。

参加者同士の交流が生まれました！

第3回

「鎌倉市の将来像を実現するための対話」

共創のための問いを生み出す

5地域ごとにチームに分かれ、2030年のありたい姿の実現に向けて共創活動を生み出すための「問い」を作成しました。

ありたい姿を実現するためには、多様な仲間と協力しながら試行錯誤し、行動し続けることが大切です。

共創活動を生み出す「問い」を考えることで、最初のアイデアがうまくいかなかった場合には、仲間とともにこの「問い」に立ち返ることで、新たなアイデアを生み出すことができます。

この「問い」は、今後、共創活動を実施するために、とても大切なポイントとなります。

たくさんのアイデアを投票で決定！

第4回

共創アイデアを探索する

第3回で生まれた「問い」ごとに分かれ、「問い」に答えるプロジェクトアイデアを企画しました。

最後に、参加者全員で、応援したいと思うプロジェクトアイデアに投票しあいました。

たくさん出たアイデアの中から、有効性と実現性が高いものに絞り込み、11個のプロジェクトが生まれました！

生まれたアイデアについては、参加者がクラウドファンディング形式（想定支援金額・協力できること・応援メッセージを付箋に書いて貼る）で投票しました。

こんな「問い」が生まれました！

- どうすれば、多世代の交流の場をつくれるだろうか？
- どうすれば、鎌倉市民全員が防災訓練に参加するようになるだろう？
- どうすれば、鎌倉にかかわる人が生き生きと元気に深沢で過ごせるだろうか？

市民対話各回の詳細をまとめたレポートを公開しています。

生まれたプロジェクトについては、次ページ

～市民対話から生まれた11のプロジェクト～

ただ意見を出すだけではなく、2030年の鎌倉をともに創るため、
将来ありたい本市の姿をともに描き、
その姿に向けて自分たちでできることを出し合い、
ブラッシュアップを重ねた結果生まれた、11のプロジェクト。

My避難所
1人で行けるもん。
近所の人も連れて行けるようになるもん♪

自宅を出発し、地域のチェックポイントをまわり、自分の避難所でゴールする防災イベントを年1回開催することで、市民が避難所まで1人で行けるようにするとともに、防災意識を高める

宿泊型の防災訓練 STAY & SAFE
鎌倉を4地区に分け、
それぞれの地区ある学校で、夏休みに
小中高校生とその家族、町内会防災部が
協力して宿泊型の避難訓練を行い、
より多くの人に参加してもらうと同時に
地域のつながりをつくる

深沢ミュージックフェスティバル
子どもから高齢者まで幅広い年代の市民が
参加できる音楽フェスを毎年開催し、
好きなことを通じて人とつながり、
活動を発信できる場をつくる

大船フェス
大船在住の小中高大学生が中心になって
文化祭のようなお祭りを毎年開催し、
地域の中でのつながりを増やし、
地域への愛着を育む

空き家でアーティスト・イン・レジデンス
世界中のアーティストに
鎌倉市内の空き家を活用してもらい、
空き家から新しい鎌倉の文化を発信し、
アートのあふれるまちにする

市民で作るバスルート
3,000～4,000人の居住地域を
一つの単位として、生活時間帯に
ショッピングセンターや幼稚園、
介護施設などをまわり、市民の足と
なるようなバスルートをつくる

もったいない食堂
食品ロスの課題解決をめざす食堂を
空き家活用や居抜きでつくり、
食や本の読み聞かせなどを通じて
世代間交流を行う

空き家めぐりツアー
空き家オーナーと
空き家を使いたい人をマッチングする
ツアーを定期開催し、鎌倉市内の
空き家の利活用を促進する

目に見える鎌倉SDGs
SDGsが達成された鎌倉の未来の姿を
壁画に描くワークショップを開催。
その壁画を市役所ロビーなど
開かれた場所に展示し、訪れた市民が
さらに加筆することで、多くの市民と
まちのビジョンを共有する

市議会 子ども参加DAY
～7世代先の鎌倉のために～

子どもたちが鎌倉市のことを考える
「子ども幕府」を立ち上げ、
子ども幕府の代表者が
市議会に参加する

駄菓子屋 deつながろう
フリースペースを提供したい人と
使いたい人をスマホアプリでつなげ、
市民の「やりたい」を身近な開かれた
場所で実現すると同時に、
地域の人のつながりをつくる

全4回に渡って
実施した市民対話や
生まれたプロジェクトについて、
タブロイド紙にまとめました！
下記HPからご覧ください。
（タブロイド紙の印刷物は
市役所でお渡ししています。）

鎌倉市HP

市民対話その後

市民対話は全4回で終了しました。第4回終了時、「市民対話で生まれた共創関係が今後どのようになってほしいですか？」と、参加者の方に問いかけたところ、右記のようなご意見をいただきました。

「市民対話を今後どうしたいですか？」

■参加者の声

- 対話ができる関係性の継続
- 継続的に対話できる「場」と「きっかけ」が欲しい
- アイデアの実行と交信
- つながっていく
- 継続した関係と実行
- 広く世代を超えて巻き込み2030年を目指す

「共創」は続いています!!

こういった参加者の声を受け、市民対話終了後も共創関係の構築・充実に向けて、対話を続けています。
また、市民対話以外でも共創関係の構築・充実に向けてさまざまな活動を進めています。
皆さんもぜひ、未来の鎌倉を見据えて、ともに考え、ともに創りませんか。

市民対話「おかわり」シリーズ

詳細については
HPをご覧ください。

市民対話から出た11のプロジェクトアイデアのブラッシュアップ、新たな参加者の巻き込みを行っています。

鎌倉「リビングラボ」

「鎌倉リビングラボ」は、住民が「主役」となり、地域課題を解決する取り組みです。住民、企業、大学、行政等が共創し、さまざまな課題を解決しながら、新しい価値を地域に生み出していきます。

詳細については
HPをご覧ください。

地域活動活性化のための交流会

詳細については
HPをご覧ください。

地域のことについてざっくばらんに話し合う会です。
今後は、世代別や地区別などさまざまな切り口で地域活動に関する交流会を開催予定です。

これからの時代は「共創」がキーワードになると考えています。生活者の視点に立ち、新たな技術や柔軟な発想を、市民・NPO・企業などさまざまな人たちと連携し実現することで、私たちのまちを暮らしやすく、快適に、そして市民一人一人が、身体的、精神的、社会的に良好な状態（well-being）となることを目指してこの計画をつくりました。
「このまちが好きだ」、「このまちを良くしたい」という人たちが集まり協力すると、まちの魅力は間違いなく高まります。次世代に責任をもって引き継げるまちを、皆でつくりましょう。

鎌倉の未来を共に創っていきましょう！

鎌倉市長　松尾 崇